

# 資料1

## アンチバイオグラム

2025(菌種別)

*Escherichia coli* 大腸菌

*Klebsiella pneumoniae subsp. pneumoniae* クレブシエラ菌

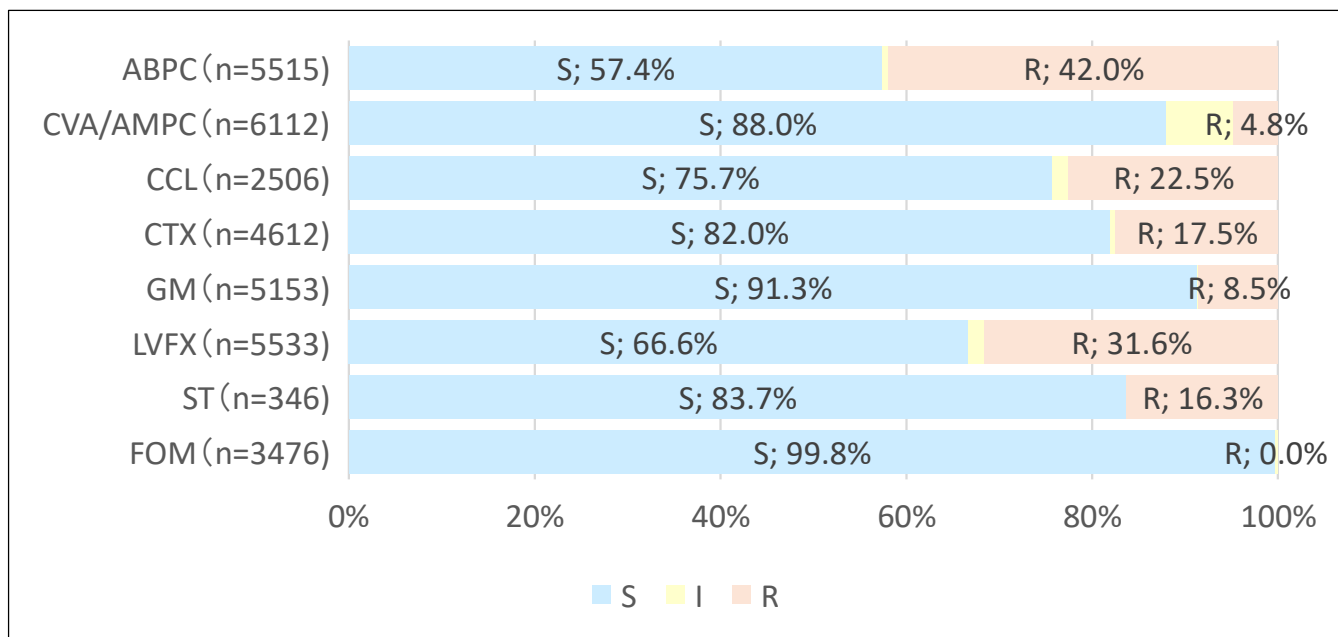
*Streptococcus pneumoniae* 肺炎球菌(髄液検体以外)

*Streptococcus pyogenes* 溶連菌

*Haemophilus influenzae* インフルエンザ菌

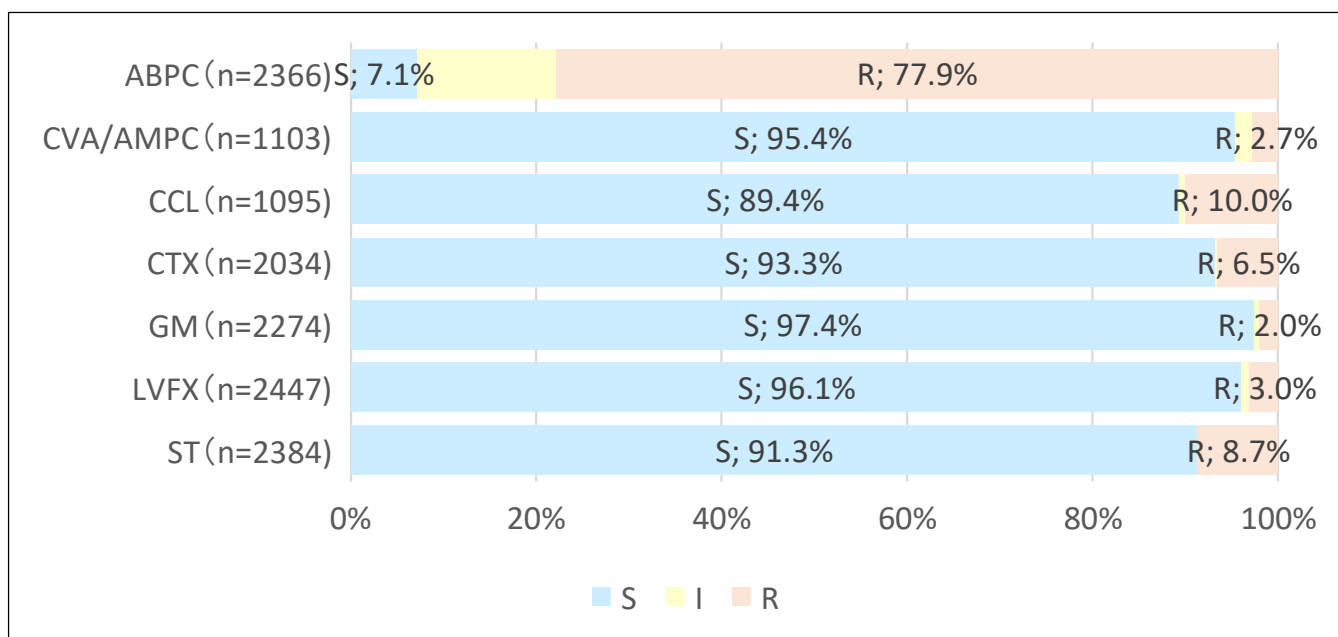
2025年1～3月に静岡県内の87施設(うちクリニック30施設)から集められ、薬剤感受性検査が実施された34,335菌株の感受性情報から静岡県のアンチバイオグラムを作成しました。

【*Escherichia coli*】



CLSI M100-ED35:2025 Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing, 35th Editionでは、大腸菌に対するFOMの判定基準は、尿路分離株のみに適応される。

【*Klebsiella pneumoniae subsp. pneumoniae*】



CLSI M100-ED35:2025 Performance Standards for Antimicrobial Susceptibility Testing, 35th Editionでは、

*Klebsiella pneumoniae*

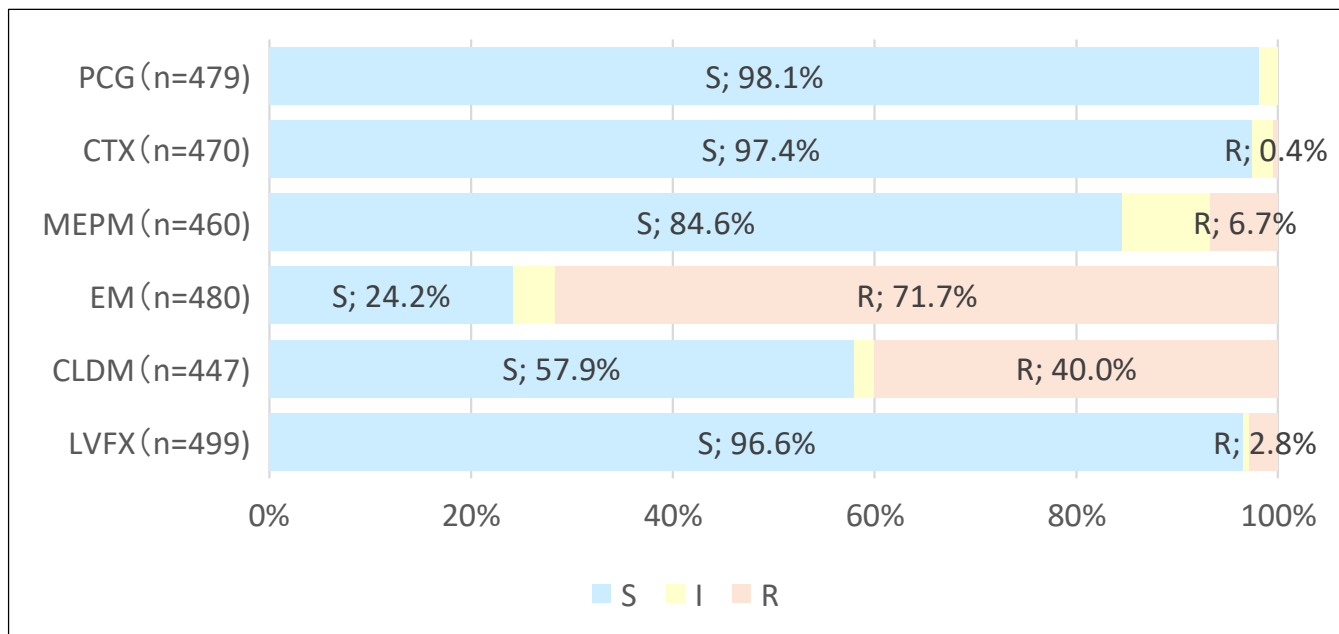
*Klebsiella oxytoca*

*Klebsiella varicola*

*Klebsiella aerogenes*

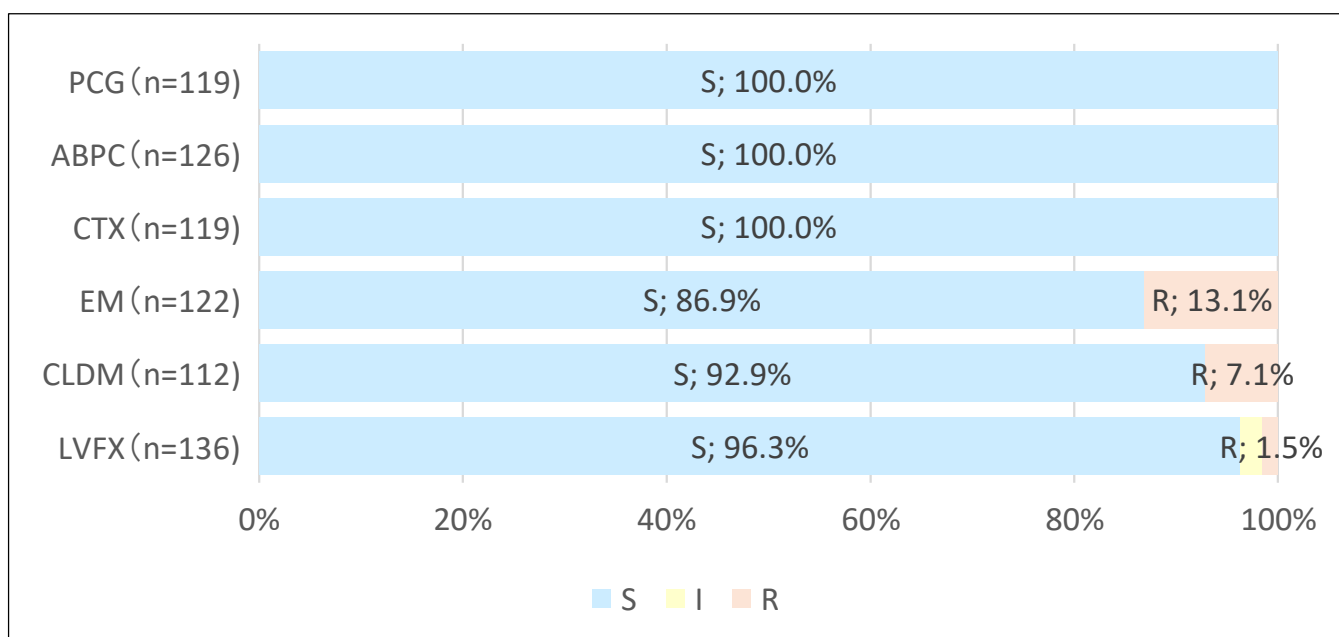
はABPCに対し、自然耐性を有しているとされています。

【 *Streptococcus pneumoniae* (髄液検体以外) 】



非髄膜炎分離株の場合、ペニシリンのMIC ≤ 0.06 µg/mLであれば、次のβ-ラクタムに対する感受性を予測できる：アンピシリン（経口または非経口）、アンピシリン-スルバクタム、アモキシシリン、アモキシシリン-クラバン酸、セファクロル、セフジニル、セフジトレン、セフェピム、セフォタキシム、セフポドキシム、セフプロジル、セフトアロリン、セフチゾキシム、セフトリアキソン、セフロキシム、ドリペネム、エルタペネム、イミペネム、ロラカルベフ、メロペネム (CLSI M100-ED35:2025より)

【 *Streptococcus pyogenes* 】



A群・B群・C群・G群β溶血性レンサ球菌については、ペニシリンの感受性結果を、アンピシリン、アモキシシリン、アモキシシリン/クラバン酸、アンピシリン/スルバクタム、セファゾリン、セフェピム、セフトアロリン、セフラジン、セファロチン、セフォタキシム、セフトリアキソン、セフチゾキシム、イミペネム、エルタペネム、メロペネムに対しても適用できる。  
また、A群β溶血性レンサ球菌では、ペニシリンの感受性結果を、セファクロル、セフジニル、セフプロジル、セフチブテン、セフロキシム、セフポドキシムにも適用できる。  
(CLSI M100-ED35:2025より)

【 *Haemophilus influenzae* 】

